

# まちづくり協議会の活動紹介

地域の課題や魅力は、地域に住んでいる人が一番よく知っています。そこで、高浜市では、それぞれの地域の特性をふまえながら、地域にとって一番ふさわしい方法で課題を解決していただき、元気で活力に満ちたまちづくりを推進するために「地域内分権」を進めてきました。その取組み内容や効果などをご紹介します。

## みんなの意識を高めよう！ いろいろな防犯活動



南部まち協では、街灯が少なく、暗いと地域の人が不安を感じていた場所に、青色防犯灯を設置しました。青色は遠くからでも見えやすいことに加えて鎮静効果があり、犯罪が起りにくいと言われています。

子どもたちが自らの目で確認し、考えることで、“まず、自分の身は自分で守る”ことへの意識が向上します。



翼まち協では、子どもたちが自ら地域を歩きながら、子どもたちの目線で、危ないと思う場所を地図に書き込んで、防犯マップを作成しています。

いざという時に、子どもたちを守ってくれる「こども110番の家」。地域の人が、子どもたちの安全を見守っています。

その後、太陽光LED防犯灯を自ら研究・開発し、3町に約20ヶ所設置しました。現在、一軒一灯設置を目指して、開発中です。

地域でのあいさつが活発なところは、犯罪が少ないと言われています。日ごろから、顔が見える関係を広げ、“地域の目”で地域の安全を守っていきましょう。



高取まち協では、園児・児童を対象に標語を募集し、入賞標語の横断幕を設置しています。明るいあいさつを通して、元気なまちづくりと、地域で顔が見える関係をつくることで、犯罪抑止につながることを期待されています。



吉浜まち協では、入学前に新1年生を対象として、通学路を確認しながら、何かあったときかけ込むことができる「こども110番の家」の場所を確認し、その家の人にあいさつをしています。



高浜まち協では、「住護の日(毎月15日)」に、児童の下校時に合わせて、交差点や通学路での見守り活動を行っています。交通安全を呼びかけたり、声かけなどを行い、子どもたちへの意識啓発をしています。

10月1日号掲載の「防犯パトロール」以外にも、各地域で、地域住民の防犯意識を高めたり、不安軽減を目指したさまざまな活動が行われています。まずは、一人ひとりが自分の身の周りの安全を守ること、そして、子どもたちや地域の安全を守っていこうという意識を高めることが大切です。

